

各候補地における河川の影響について

新文化会館の候補地である平ヶ崎地区（今市文化会館解体後跡地）及び七里地区（七里地内市有地）において、それぞれ隣接する河川の影響及び市の考えを示したので、ご意見を伺いたい。

1. 平ヶ崎地区（今市文化会館解体後跡地）：二宮堀

今市文化会館の敷地内（駐車場）には、二宮堀が横断して流れており、日光市が定期的な清掃や点検を行っている。

平成27年9月の関東・東北豪雨では、二宮堀が溢水し、今市文化会館の駐車場及びJR日光線と交差する国道121号アンダー一部が冠水した経緯があることから、対策が必要である。（参考資料3 図1）

<対策>

二宮堀には、舞台裏手側の河川が開渠から暗渠になる部分にスクリーン（ゴミの進入を防ぐための網）が設置されており、そこにゴミが詰まることで溢水し、高低差が低い今市文化会館駐車場に流れ込んでくる。このため、日常的な管理に加え、台風や低気圧による大雨時に行ってきた小まめな清掃や点検を継続していく。

2. 七里地区（七里地内市有地）：志渡淵川

一級河川志渡淵川に隣接する建設候補地の中には、栃木県が公表する洪水浸水想定区域が点在し、想定最大規模浸水深が3～5m未満の場所は河川沿いに数か所、また部分的に0.5～3m未満となっている場所があるものの、ほとんどは0.5m未満であり、これらに対しては、盛土をするなどの浸水対策を検討する必要がある。

また、建設候補地に隣接する志渡淵川の一部は、砂防指定区域に指定されている。

（参考資料3 図2）

<対策>

建設候補地は現況山林であり、隣接する市道七里～野口線の地盤高より低い場所に位置するため、市道の地盤高を基準としながら盛土・造成工事を行い、浸水の影響を最小限とする。

浸水リスクの調査並びに浸水の目標水準等の設定を行ったうえで、建物内への浸水を防止する対策（止水扉の設置、電気設備を浸水リスクの低い場所に設置等）を行う。

砂防指定区域を整備する場合は、日光土木事務所等との協議を行ったうえで、雨水などの河川への放流量の調整について対策を行う。



〈市の考え〉

- ・関東・東北豪雨など極端な降水を想定した場合、いずれの候補地においても何らかのリスクがある。
- ・平ヶ崎地区については、過去に二宮堀が溢水した経緯があることから、平ヶ崎地区を整備地とする場合は、日常的な管理に加え、これまで大雨時に行ってきた小まめな清掃や点検を継続していく。
- ・七里地区については、洪水浸水想定区域指定をもって、候補地から除外するには至らないものと考えており、七里地区を整備地とする場合は、浸水対策に万全を期していきたい。
- ・整備地選定にあたっては、それぞれの候補地における河川の影響等に配慮しつつ、現実的な利用促進やまちづくりの視点など、将来性を見極めて進めていきたい。